

令和8年(2026年)5月8日(金)

総務部 総務課

旧城南中学校利活用事業 地元説明会 第2回目について

第2回目の地元説明会について、次のとおり実施を計画しています。

第2回目の説明会では、敷地の全体構想、事業や施設の構想をお伝えする予定です。

①5月24日(日) 午前 10:00~11:30

対象：市全体 会場：飯山市公民館2階講堂

②5月30日(土) 午前 10:00~11:30

対象：上倉区 会場：上倉区コミュニティセンター

③5月30日(土) 午後 13:00~14:30

対象：地元4区(新町区、栄町区、金山区、松倉区)

会場：飯山市公民館2階講堂

④5月30日(土) 午後 15:00~16:30

対象：市全体 会場：飯山市公民館2階講堂

令和8年（2026年）5月8日（金）

総務部 総務課

第1回 飯山市旧4小学校利活用ビジョン検討市民会議

令和8年（2026年）2月24日 開催 13:45 ～ 15:45

議事録概要版

会議概要

今回の会議では、閉校となった4つの旧小学校の利活用について、地域資源を活かし飯山市をさらに活性化するためのさまざまなアイデアが話し合われました。議論はこれまでに市に寄せられた市民からの具体的な提案から始まり、市からの現状説明や市の方向性の共有も行われました。自然環境や交通の利便性を活かしながら、住民と訪問者双方に寄与するアイデアが示され、次回以降の議論へ繋がる具体的な方向性が形成されました。

【会議の開始と背景】

旧4小学校利活用ビジョン検討市民会議では、市の貴重な資産である空き校舎をどのように地域活性化に活かすべきか議論しました。市からは、まずは委員個々のアイデアや構想を積極的に提案して共有してほしいとの方向性が示されました。

【自己紹介と多様な視点】

最初に委員の自己紹介が行われ、多様な背景をもつ市民が集まっていることが明らかになりました。地元で生まれ育った方、移住者、市民団体の関係者、商業活動に携わる方など、地域を深く知るメンバーが顔を揃えました。それぞれの視点から飯山市特有の課題や可能性を指摘し、議論に向けた前向きな意識が共有されました。

【議長と副議長の決定】

委員長には田中克徳氏が、副委員長には工藤千麻琴氏が指名されました。

【地域資源の活用アイデア】

委員からはさまざまなアイデアが示されました。例えば子どもの遊び場や室内施設を改修して提供したり宿泊施設を設けることで観光と地域活性化を結びつける案が挙げ

りました。また、旧4小学校の活用方法として、スポーツジムの設置、ボランティア活動拠点の整備、地域の文化を発信する場所の提供などの提案がありました。

【市からの現状説明】

市からは校舎の利活用に向けた現行の取り組みや、公募の際の基本条件について説明がありました。市外企業誘致の可能性についても言及され、具体的な活用案として宿泊施設や地域振興機能を持つ拠点などの案が示されました。

【人口減少への対応】

人口減少による課題も議論されました。閉校に至った背景として、子どもの数が減少している現状があるため、地域全体で取り組むべき課題として「人を呼び込む仕組み作り」について議論されました。

【教育施設としての利用可能性】

議論を通じて、施設の一部を教育関連活動や集会場として利用する可能性も示されました。特に地元スポーツの発展や文化交流といった視点から、若年層の教育環境を育む場として活用するというアイデアが支持を得ました。

【行政運営への期待と課題】

委員からは、行政が中心となり施設の管理運営を担うことへの期待が表明される一方、安定した収益性確保の難しさについて懸念も示されました。

【次回までの宿題】

会議の最後に、飯山の魅力を再確認するために、自然環境や交通の利便性といった強みを明確化し、アイデアの更なるブラッシュアップを図るよう委員で共有しました。次回の会議までに個々のアイデアを整理し、より具体的な活用案を提示することとなりました。(各委員へ提案シート等を送付します。)

【現地確認と今後の議論】

事務局から次回日程と合わせて、旧4小学校の校舎等地の現地見学の日程の説明がありました。

令和8年(2026年)5月8日(金)

総務部 総務課

第2回 飯山市旧4小学校利活用ビジョン検討市民会議

令和8年(2026年)3月31日 開催 13:30 ~ 15:30

議事録概要版

会議概要

今回の会議では旧4小学校の利活用ビジョンについて、多岐にわたる観点から議論が展開されました。会議では移住促進、子育て支援、観光活性化、農業振興、地域おこし協力隊活用など様々なアイデアが提示され、人が集まり、地域の活力を生み出すためには具体的な仕組みと実行力が不可欠であるという認識が共有されました。また地域の特性を生かしたまちづくりについて、行政・民間・市民連携の可能性を模索する議論が中心となり、今後は具体的な事項や役割分担の明確化が進められることが期待されます。

【熱量と議論の重要性】

田中委員長は挨拶で、前回の会議や事前メモから感じられた参加者の熱量と積極性に感謝を述べ、多様な意見を取りまとめる力が地域の発展に繋がることを強調しました。また、議論が実現に結びつくことの重要性を指摘し、参加者に自由な発言を促しました。

【参考資料としての他自治体の事例】

千葉県流山市と静岡県長泉町の事例が紹介され、それぞれ交通アクセスや子育て支援、財政の安定などが人口増加の要因であるとの説明がありました。これらの事例を飯山市でどう活かすかが議論の発端となり、施策アイデアが模索されました。

【飯山市の強みと可能性】

参加者から出された意見では、北陸新幹線飯山駅がある交通アクセスの良さや豊かな自然・風習などが飯山市の強みとして挙げられました。一方で、寒冷地特有の課題も指摘され、幅広い視点からの解決策が議論されました。

【移住促進と安定した生活環境】

人口減少を食い止めるために移住者受け入れを促進するアイデアが出されました。在宅勤務や移住手当の導入、親しみやすい住居環境の整備、2次交通への配慮などが議論され、移住者が安心して住むための支援体制の重要性が確認されました。

【観光と通年型雇用の可能性】

観光業と通年型雇用の両立についても議論されました。特にグリーンシーズンでの農業体験、星空観察など、都市部では得難い体験の価値を高める必要性が提案されました。また観光施設やインバウンド対応の充実が求められる一方、観光に依存しすぎると雇用が不安定になる点が課題として指摘されました。

【子育て支援と活性化センター構想】

子育て世代の住みやすさを向上させるための児童館や遊び場などの整備が提案されました。無料で利用できる施設や行政運営による公正なサービスが求められ、保育士不足に関する懸念も重要な課題として浮上しました。

【農業振興と教育連携】

農業体験や市民農園の活用による地域活性化のアイデアも出されました。農地法に基づく制度整備や、農業技術を教える学校の設置などが議論され、教育と観光・移住が結びついた施策の可能性が示されました。

【地域おこし協力隊の課題と可能性】

地域おこし協力隊については、十分に課題解決に繋がっていないとの指摘がありました。提案型の活動が多いことや、支援終了後の継続性が課題となっており、より具体的に地域のニーズに応じた活動にシフトすべきという意見が出されました。

【公共・民間連携による運営体制】

公民連携を活用すること、SPC（特定目的会社）やふるさと納税の活用、クラウドファンディングによる財源確保など、地域振興に向けた運営体制についても議論の幅が広がりました。公益性と収益性を両立させる仕組みについての専門的な検討の必要性が浮き彫りとなりました。

【住民参加型の推進体制】

最後に、住民参加型の体制を構築する重要性が認識されました。議論の中で、行政による一方的な提案ではなく、市民や関係する団体と密接に連携しながら、地域の課題を解決する方法を模索していくことが求められました。